

# 救援・復興県民会議だより

発行 東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議

No. 9

盛岡市本町通2-1-36

浅沼ビル4F

電話・FAX(兼)

019-601-5133

ホームページ

[http://www1.ocn.ne.jp/~](http://www1.ocn.ne.jp/~fukkoug/index.html)

[fukkoug/index.html](http://www1.ocn.ne.jp/~fukkoug/index.html)

## 東日本大震災津波1年岩手県民集会

(3月4日 岩手県水産会館大会議室) (その2)

### 大震災津波から1年、被災地からの報告・発言

室崎関西学院大学教授の記念講演後、「大震災津波から1年」というテーマで、沿岸被災地から4人が報告・発言をしました。



陸前高田市職労菅原委員長

最初に発言したのは、**陸前高田市職労の菅原正弘委員長**。陸前高田市では市の人口の約1割近い人が犠牲なるなど壊滅的な被害を受けた。市職員

も68名が犠牲となった。全国はじめ県内から頂いた支援にお礼を述べるとともに、困難な中を自治体職員として市民の暮らし、福祉を守るために奮闘してきた。メンタルなど抱える課題は多いが一日も早い復興をめざしたいと述べました。



大船渡市を良くする会田村幹事

次に発言をしたのは、**大船渡市政を良くする会幹事の田村長英さん**。田村さんは、大船渡市内の被災状況を述べるとともに、会として市の復興

計画策定に向け、三次のわたり要望書を提出。1月に地域総研と協力してシンポジウムを開催したことを報告しました。

### 医療費の窓口負担免除の更なる延長を

大槌町内の仮設住宅で暮らしている**阿部祐吉さん**は大槌町の現状を発言。阿部さんは、「仮設住宅の住環境改善を『生活と健康を守る会』をつくって草の根の運動をすすめてきた」とのべ、町が行った「住宅再建意向調査」の結果を紹介した上で、「今後の『住』の問題、復興事業は、生まれ育った故郷大槌で生き抜くためにも国や県の大きな支援が欠かせない」と強調しました。



大槌町生健会阿部代表



前川代表世話人(釜石在住)

声を行行政に届け、頑張ってきたと**前川代表世話人**。住宅再建で100万円の補助、流出した店舗の再建に最大300万円補助など一定の前進は被災者を励ますもの。防災センターに避難した人たちが犠牲になった、この「悲劇」に至った真の原因と責任の所在を市に求めた、市は誤りを認めたが引き続き検証が必要と。さらに、憲法の保障する「生存権」確立のため被災者主役の大運動を提起したいと述べました。

### 要求約50項目を4次にわたり提出

被災者の人間らしい生活を求める当たり前の要求の実現をめざし、

### 被災地沿岸の職員を対象に

### 『震災後の仕事と暮らしに関する調査』について



地域総研栗田常任理事

て、同研究所**栗田但馬常任理事**(県立大講師)が報告をしました。栗田さんはいわて労連、岩手自治労連、県医労、県農協労組などにアンケート調査の協力を依頼。その結果をまとめているが、近日中に記者会見で発表すると断った上で、「アンケートを3800人に配布し2206人から回答を頂いた。被災直後の職場の実態は、ストレスや心的疲労の『増』が男女ともに50%を超えている」などを紹介しました。

この調査結果は、調査に協力してくれた沿岸地域での報告集会等を開催して、今後の地域の取り組みに活かしていきたいと述べました。

『震災後の仕事と暮らしに関する調査』(3月9日に記者会見を行った際の資料)はHPに掲載しています



**「医・職・住・学」に新たに「通」を、今後の3つの取り組みを提案**

まとめを行った鈴木事務局長

県民会議鈴木事務局長は大震災津波から1年を迎えるも、これまでのたかひの到達点を明らかにした上で、新たな状況も踏まえて当面する重点課題と今後の取り組みを提案しました。

当面する重点課題として、被災地での孤独死・自殺をなくし、いのちと暮らしを守ること、住宅の確保への支援強化を、雇用と産業の再建を急ぐことなど、7つに整理をして提起。また、今後の取り組みでは、JR東日本が、突然、JR山田線（宮古ー釜石）、JR大船渡線（盛一気仙沼）についてBRT（高速バス輸送システム）の導入に言及したことに、沿岸自治体首長はいっせいに鉄道の堅持を求める声を上げました。三陸地域をつなぐ鉄道は、町づくりのために欠かせません。こうしたことから、「医」・「職」・「住」・「学」の4つの分野と密接に関係する公共交通問題「通」を加えた取り組みを進めるとしました。そして、①被災地に「地域共同センター（あるいは連絡会）」の設立・結成をめざす、②被災地における労働・生活相談活動の計画・実行、③被災地からの要求を声に出した行動（キャラバンや小○大行進）にむけた準備、の3つの行動提起をしました。

原発問題では、県内の学者・弁護士・医師ら22氏がよびかけた「アピール」に賛同して運動を広げる、3月11日の「イレブンアクション」として行われる署名・宣伝への参加をよびかけました。（集会で配布した文書をHPに掲載）

県民集会は、最後に東代表世話人が、「本日の県民集会には250人を超える参加者あった」と参加に感謝を述べて閉会の挨拶を述べました。



閉会挨拶述べる東代表世話人

**メッセージを寄せてくれた団体は以下の団体**

全国保険医団体連合会、日本科学者会議災害問題研究委員会、国公労連、新建築家技術者集団東日本大震災復興支援会議、自治労連、全教、岩手民医連以上7団体



オープニング 35人が集まって「うたごえ演奏」



オープニングでうたごえ演奏を行ったのは、岩手のうたごえ合同合唱団（うたごえサークルひろば、滝沢ぞうれっしゃ合唱団、保育のうたごえやじろべえ、盛岡合唱団など）の35人。「合唱、うたごえで追悼と復興への励ましをしたい」と「空より高く」、「ふるさと2011」、「負けない みんなで 一歩ずつ」（作詞・曲高屋修）の3曲を、柴田トヨさんの詩「被災者の皆様に」の朗読を織り交ぜて披露しました。集会開催前にも練習を重ね、集会参加者に大きな感動を与えました。また、「負けない みんなで 一歩ずつ」のCDが6枚売れ、代金3千円は県民会議にカンパされました。



全国災対連笹渡代表世話人

**全国災対連からも賛助金**

県民集会は、全国災対連（事務局 全労連）の協賛を頂き、来盛した笹渡代表世話人（全国農民連事務局 長）は県民集会で連帯の挨拶を行いました。また、笹渡代表世話人から賛助金（3万円）を頂きました。

**県民集会の司会役に、金野、中野の常任世話人**

大震災津波から1年を前に開催をした「東日本大震災津波1年岩手県民集会」の司会役を、県民会議常任世話人の金野いわて労連副議長と中野岩手医労連委員長が務めました。



司会役の金野、中野の二人